

サ行

サ		
若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
サエ(イ)ナラ	サヨナラ	
サガ	サカ	坂。サガと鼻濁音になる。
サガヤギスル	カミヲカル	髪を刈る。明治初期以前に生まれた人は丁髷(チョンマゲ)の前部を月代(サカヤキ)と言う習慣が抜けない。月代は剃ったものだから、明治になって丁髷は廃止になり、バリカンで髪を刈るようになったが言葉は残った。
サギッポ	サキノホウ	先端
サッカゲ	サキガケ	鋏(くわ)などの先のほうを修理すること。「鍛冶屋でサッカゲして貰ったら、トデモ使いヨグなったよ、この鋏」
サバゲデ	サバケテ	捌けて、物分かりよく、割り切って。「ンデえ、サバゲデ貰ってイギます」
サムガナガネえ	サムクナクハナイ	寒くなくはない、つまり寒いということ。「サムガナガネえガラ、エマ(もう)エジメえ(1枚)着てゲ」(エマはエモとも)
サヤッポ	デシャバリ	出しゃばり、出過ぎ者、またその行為
サワゲル	スガアク	‘ス’は大根や牛蒡(ごぼう)などの芯に細かい孔ができること。‘ズウアエダ’とも言う。
サンジャグ	サンジャク	兵児帯(へこおび)のこと。昔、布を3尺に切って帯にした時代がある。3尺帯(さんじゃくおび)と言った。それが兵児帯に発展したが名前は残った。

シ		
若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
シキゲェル	ヒキガエル	蝦蟇(ヒキ)蛙, 蟄(ガマ)
シクネル	シグナル(signal)	信号機。鉄道が開通してからできた言葉。駅のホームに設置された大きなハンドルを倒し、信号機と結びつけられたケーブル線を引くと、信号機の水平な腕木が45度下がり‘進入可’の表示となる。引くと動くから‘引く寝る’と言ったもので‘引く’が‘シク’と訛った。
ジゴクソバ	ドクダミ	どくだみ。地下茎が長く地獄の傍までも届いて居るのではないかと考えたからか、地獄の蕎麦といったものか。
シタジ	シタアジ	下味, 餛飩(うどん), 蕎麦などのつけ汁
ジダッポ	ドングリ	櫟(くぬぎ)の実。櫟の実にも言う。
シッカジル	ヒッカク	引掻く
シツカリ	タクサン	沢山。「コナエダもシツカリ貰ってマダコンナニ、スンマセン、アリガトゴザンス」
シツクリゲェス	ヒツクリカエス	ひっくり返す。「モチ焦げネえウジ, シツクリゲェせ」
シツケエ	キョシュノレイ	挙手の礼
シツチナグル	ヒツタクル	奪う
シツチョ	シチョウ	紙帖。雁皮紙(がんびし)を貼り合わせて造った小さい落下傘。打ち上げた花火の中から出る事もあり、それを拾ったりしたもの。子どもらが手作りしたりして遊んだ。

シツツアバク	ヒキサバク	引き捌く。「手エキツチャツタ, 手ヌゲシツツアバエデクロ」
シツパタグ	ハタク	叩くに接頭語がついた。‘ヒ’が‘シ’に訛る。喧嘩して「シツパダグド, コネヤロウ, ナグナヤロウ」
シツパル	ヒツパル	引張る。荷車の綱引きに「ウントシツパレ, ソラキタ」
シツペガス	ヒツパガス	引き剥す。「膏薬ムリニシツペガスナ」
シトツピシャ	ヒトフサ	蜜柑の实の中の一房。「シトツピシャデモエエガラ, クロナ」
シドミ	クサボケ	草木瓜(クサボケ)。木も実も。「シドミ食ったらスッカクテ, ウワスツケ」
シトル	シケル	湿ける。「このセンベン, シトツチャツタ」
シバヤシ	シバイヤクシャ	芝居役者
シブド	シビト	死人
シャグシツツラ	シャクレツラ	しゃくれ面。ツラは‘面’で顔
シャゲ	サケ	鮭
シャツポ	ボウシ	帽子。外来語(フランス, ポルトガル)
シャボン	セッケン	石鹼。外来語(ポルトガル)
ジャマゲド	ジャマ	邪魔。「ジャマゲドダ, シャレ」
シャル	サル	去る。(活用)「シャルス」
シヨ, シヨオ	シオ	塩
シヨエバシゴ	セオイハシゴ	荷物を縛りつけて背負って運ぶ道具。二宮金次郎が背負っているあれより大きい。
シヨオアンメえ	シヨウアルマイ	仕様あるまい。「風でシツクルゲエッタダモノ, シヨオアンメえ」「シカダネえナ, カダサネえノワリンダ」* ‘シカダネ’も同じような言葉で, 共に諦めの気持ちが含まれている
シヨオドモネえ	シヨウトモナイ	つまらない
ジヨオリ	ゾオリ	草履。「天気がエエガラ, ジヨオリミチダ」
シヨッカダ	セオイ(カタ)ミノ	日除け蓑。背中と肩の部分の日除けとなる。畑や田の草取りなどには良い。「アズクナツカラ, シヨッカダモツテンベ」
ジョンコ	リコウ	利口, 賢い子。「ジョンコダガラ, ソレトツテクロ」
シラヤ	シラアエ	白和え。白胡麻と豆腐と白味噌を摺り交ぜ野菜や肉に和えたもの。「ンマエガンナ, 葱のシラヤは」
シロツペエ	シロツポイ	白っぽい。白が多く見える「シロツペ着物は汚れが目立つ。クロツペのキテゲ」

ス		
若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
スエヒロコガ	スエフロコガ	据え風呂桶
スエガン	スイカ	西瓜。「スエガン割ったガラクエよ」
スエル	スエル	饑える。飯などが腐って酸っぱくなること。若柴周辺の独自の言葉ではなく, 古くは広く使われた。
スエロ	ソエロ	添えろ。一緒にしてくれ。仲間に入れてくれ。
スカシテル	スマシテル	澄ましてる。気取ってる。「アネヤロ巻きタバゴナンドクウェデ, スカシテヤガンノ」*クウェデはクワエテ
ズグネル	スネル	だだを握ねる
ズグム	ウズクマル	蹲(うずくま)る。「誰だ, ソゴニスグンデンノ」
スコテ(デン)	タクサン	沢山。「ナツパア, スコテント, モラツテキタド」

ズスエ	<u>ズルイ</u>	ズルイとコスイとの合成。当地方で発生。「アネヤロ、ズルクテコスエのナア。‘ズスエ ンダ’ヨナ」* 筆者が小学校の5年のころ言い出した。
スッカ(ケ)エ	<u>スツパイ</u>	酸っぱい。未熟の果物に「マアダスツヶエガ ラクエネエド」
スッコスル	<u>コスル</u>	擦(こす)る、摩(す)り擦る
ス(シ)ツツアバグ	<u>ヒキサバク</u>	引き捌く。シの部にあり。
ステギモネエ	<u>ステキ</u>	‘素敵’を強調したもの。「ステギモネエ物 貰ったチケナ」
スネツパギ	<u>スネ</u>	臍(すね)も脛(はぎ)も膝の下から踝(くるぶし)までの下肢の部分。呼び方が違うだけ。両方を言ったのは意味を強めるためと思われる。
スマッコ	<u>スミ</u>	隅。後ろに‘コ’がついた。‘スミッコ’とも言う。「重バゴのスミッコを楊枝でホジグルヨウニ、細ツカグシネエでもエエガンナ」
スマブリ	<u>スマモリ</u>	巣守り。鶏が卵を産む巣箱に「ここへ卵を産むのだよ」と入れておく卵のことで‘種卵’と言って擬製卵を用いた。いつも残って巣を守っている様だから‘巣守り’と言い、それが訛ったもの。一人の留守居を「今日はスマブリガ」などと言った。
ズムシ	<u>ズイムシ</u>	髓虫。二化螟虫。稲の髓を食う害虫。小学校の3年以上が害虫駆除と言って、朝から出かけ、苗代のうちに稲の葉に生み付けられた卵や成虫の蛾を取る。取った数によって役場から褒賞金が出た。
ズメスル	...	グズグズする。マゴマゴする
スル	<u>ソル</u>	剃る。「髭伸びダナ、スツテヤロガ」

セ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
ゼエ	<u>ヨイ・イイ</u>	良い。「ゼエシャツポ買って貰ったナ」* 年よりに‘ゼエ’を言う人があった。
セエセドシタ	<u>セイセイトシタ</u>	清々とした。「ああ庭あ掃除したらセエセドシタ」
セエフ	<u>サイフ</u>	財布。「セエフナツクサネえ様にシロ」
セゴロ	<u>セグロ</u>	背中が黒い淡水に住む小魚。東国訛。
セジデ	<u>センジテ</u>	煎じて。「腹エダケリヤ、センフリセジテ飲むドエエヤ」* センフリは千振(せんぶり)。
セツカチ	<u>セツカチ</u>	性急。早いのが好き。「忘れダナこれ、あのセツカチが」
セツナイ	<u>セツナイ</u>	貧しい。苦しい
セナ	<u>セガレ</u>	悴(せがれ)。長男
セビル	<u>セブル</u>	せがんで貰う。ねだる
センコロ	<u>サキゴロ</u>	先頃。「センコロ行ったバガシダツペ」
センゼえ	<u>ヤサイ</u>	野菜。「センゼえバダゲ」
センベン	<u>センベイ</u>	煎餅(せんべい)
センミ	<u>セミ</u>	蟬。油蟬の幼虫は6年も土の中にいる。

センロップン	センロップン	千六本。大根を細かく切ったもの。中国語の織蘿蔔(センロップ)を日本流に千六本としたもの。蘿蔔は大根のことで当用漢字になるまでは一部農業関係ではこの字を使って‘ダイコン’と読ませていた。‘ニンジン’は胡蘿蔔と書いた。
--------	--------	---

ソ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
ソシタデダ	トゲヲサシタ	棘(とげ)を刺した。
ソオタニ	<u>ソ</u> ンナニ	...
ソゲル	<u>ソ</u> レル	逸(そ)れる。「この矢アソゲツチャアンダモノ、ダエダ」
ソッポ	<u>ソ</u> ッポウ	外方。別の方。「ソッポ見デネエデ前見デサツサド歩ゲ」
ソナ	カワセミ	翡翠(カワセミ)。古くは‘ソニドリ’と言ったが、その‘ソニ’が訛った。絶壁の崖に横穴を掘り巣を作る。魚取の名人
ソノケシ	ソノカエシ	その返し。その換わり
ソベル	ネル	寝る。寝そべる。
ソラッポエデ	ベツノホウヲミテ	別の方を見ている様
ソロッカニ	<u>シ</u> ズカニ	静かに。ソロットとシズカニとの合成
ソロット	<u>ソ</u> ット	静かに
ソロベル	ソロエル	揃える。ソロエルとナラベルとの合成
ソワ、ソワツタレ	ケイシャチ	傾斜地
ソンダラ	ソレナラ	...